

本科講座 5

仕訳（複数勘定科目の仕訳・値引・返品）

ねらい 複数の勘定科目の仕訳をマスターする。実際の仕訳帳の形式を学習する。

ここまで、いくつかの仕訳を学習してきましたが、借方・貸方の勘定科目は1科目ずつでした。しかし、実際の取引では仕入代金の一部を現金で支払って、残りは掛取引という場合もよくあります。この場合の仕訳方法を考えてみましょう。一つの取引で2つ以上の勘定科目が出てくる場合には、下記のように仕訳を行います。

例1 A商店から商品50,000円を仕入れ現金30,000円を支払い残額は掛けとした。
(借方) 仕入 50,000 (貸方) 現金 30,000
買掛金 20,000

商品を仕入れたので、借方に仕入50,000円を記入して、貸方に現金30,000円と買掛金20,000円を記入します。下記のようにはなりませんので、注意しましょう。

借方 仕入 30,000 貸方 現金 30,000
借方 仕入 20,000 貸方 買掛金 20,000

このように、仕訳では借方の行数と、貸方の行数が一致しないこともあります。かならず左右の合計は一致します。

【値引・返品】

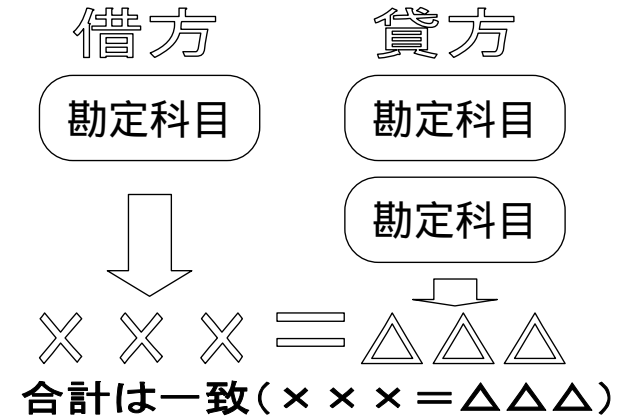
せっかく売上げをあげても、商品を値引きや返品する場合があります。値引とは、商品の販売価格を下げることをいい返品とは品違いや数量違いなどで、商品を返すことをいいます。どちらの場合もいったん書いた仕訳を訂正するのではなく、金額の修正するために仕訳を新たにします。また、返品は試験では戻し高（戻し入）といわれる場合もあります。

例2 商品10,000円を仕入れ、代金は掛けとした。その商品が値引1,000円を受けた。
最初（仕入）の仕訳が
(借方) 仕入 10,000 (貸方) 買掛金 10,000
値引の仕訳
(借方) 買掛金 1,000 (貸方) 仕入 1,000

例3 商品10,000円を仕入れ、代金は掛けとした。その商品を3,000円分返品した。
最初（仕入）の仕訳
(借方) 仕入 10,000 (貸方) 買掛金 10,000
返品仕訳
(借方) 買掛金 3,000 (貸方) 仕入 3,000

複数の仕訳

1つの取引で2以上の原因がある時には、仕訳は借方と貸方の行数が合わない場合がある。ただし、借方合計と貸方合計の数字は常に一致する。



値引・返品仕訳

値引・返品は仕入れの逆の仕訳！

